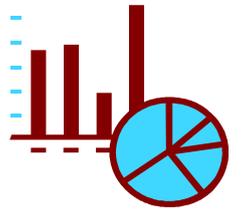


# 2015年は国勢調査の年です



2015年は国勢調査の年です。街中でも国勢調査のポスターをごらんになったことがあるでしょう。しかし国勢調査と聞いて、「なんだか難しそう・・・」と敬遠しがちな方も多いため、そこで今回は国勢調査にスポットをあてて、平成22年国勢調査の集計結果からどのようなことがわかるのか見てみることにしましょう。

国勢調査でわかることの一つに昼間人口・夜間人口というものがあります。夜間人口は住んでいる場所の人口を、昼間人口は夜間人口に通勤・通学先を反映した人口のことです。一般的な人口は夜間人口のことです。

沖縄県の昼夜間人口および就業者・通学者の状況

	平成22年					
	昼間人口 (2)3)4)	常住人口 (夜間人口) (2)3)4)	当地に常住する就業者・通学者 1)			15歳以上 通学者
			自市町村で 従業・通学	総数	15歳以上 就業者	
沖縄県	1,392,280	1,392,818	365,609	265,766	229,187	36,579



1) 年齢不詳は含まない。 2) 年齢不詳を含む。 3) 労働力状態「不詳」を含む。 4) 15歳未満通学者を含む。  
「昼間人口」とは、常住人口(夜間人口)から、他市区町村への通勤・通学者を引き、他市区町村からの通勤・通学者を加えた数。

平成22年の沖縄県の昼間人口は139万2,280人で、夜間人口は139万2,818人です。就業・通学の状況を見ると、36万5,609人の方が自市町村内で、26万5,766人の方が他市町村へ就業・通学をしていることがわかります。

自市町村内での就業・通学者数

順位	市町村	就業・通学者数
1	那覇市	99,114
2	沖縄市	29,044
3	うるま市	26,370
4	宮古島市	25,299
5	浦添市	23,465



他市町村への就業・通学者数

順位	市町村	就業・通学者数
1	那覇市	39,412
2	浦添市	27,563
3	沖縄市	26,074
4	宜野湾市	25,072
5	うるま市	21,533



自市町村内での就業・通学者数が最も多いのは那覇市の9万9,114人で、次いで沖縄市2万9,044人、うるま市2万6,370人となっています。また他市町村への就業・通学者数については那覇市が3万9,412人、次いで浦添市2万7,563人、沖縄市2万6,074人の順となっています。

利用交通手段別15歳以上自宅外就業者・通学者の割合(沖縄県)



複数回答  
割合は「利用交通手段 不詳」を除いて算出した。

最後に、自宅外で就業・通学している方がどのような交通手段を利用しているか見てみましょう。「自家用車」を利用する方が最も多く、67.5%となっており、次いで「徒歩のみ」が10.5%、「オートバイ」が9.2%の順になっています。節電の影響で利用が広がっているとされている「自転車」は3.7%と、さほど高くないことがわかります。



今回ご紹介したデータ以外にも市町村ごとの詳しい結果も公表されています。国勢調査が実施されるこの機会にぜひ自分の住んでいる市町村について調べてみてはいかがでしょうか？

資料：総務省「平成22年国勢調査」

<http://www.e-stat.go.jp/estat/html/kokusei/NewList-000001039448.html>